



進 交 会 報




～ 人と進んで交わり、共に資質を高めよ。～



時計台 (金沢八景キャンパス)

進交会館

進交会報の分冊を試行
 今年度は試験的にY校版と市大版の分冊発行を行っています。
 皆さまには、分冊に関するアンケート (QRコード、メール、はがきのいずれかで回答) を
 お願いします。



進交会新年懇親会のお知らせ
 日時 令和4年1月29日 (土)
 午前11時30分開宴
 会場 崎陽軒本店 4階
 ※コロナ感染状況により中止することもあります。必ず電話、HPなどで事前にお問い合わせください。

〔目次〕

挨拶 二
 進交会だより 三
 「Y専の歴史・横浜市大の源流」 四
 齊藤毅憲
 「コロナ禍のゴッドハンド輝」 四
 山本航暉
 市大情報 八
 新型コロナウイルス感染症対応 六
 市大生の活動 九
 市大同窓会の活動 十
 支部だより 十二
 同窓生だより 十四
 訃報、編集後記 十五
 十六

発行 一般社団法人 進交会

〔進交会は、横浜市立大学 (市大) と横浜市立横浜商業高等学校 (Y校) の同窓会です。 「人と進んで交わり、共に資質を高めよ。」は、Y校初代校長の美澤進先生 (福沢諭吉の高弟) の言葉です。〕

〒 231-0012 神奈川県横浜市中区相生町 6-111 電話 045-681-6575 FAX 045-681-6585

Mail : shinkoukai@nifty.com (進交会) ycureunion@gmail.com (市大同窓会) HP: https://shinkoukai-web.jp

コロナ収束で 進交会館落成の真の喜びを！

一般社団法人進交会 理事長 古屋 文雄



進交会会員の皆様、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大により、当たり前前の日常生活

が大きく制限されてしまいました。皆様も緊張感の中で生活が続き、本当に大変な毎日をお過ごしのことと存じます。会員の皆様には進交会館の感染拡大防止にご協力を頂き心より感謝を申し上げます。

緊急事態宣言の発出等に伴い、会員の皆様が気軽に利用できるラウンジの「みなと倶楽部」や貸会議室の事業を一定期間休業せざるを得ず、進交会館落成の真の喜びを会員の皆様に享受していただかず、誠に残念な思いをしております。

今般、初の試みとして、従来のY校、市大を合同掲載し発行していた進交会報を、今回試験的にY校版、市大版に分冊発行することとしました。分冊により、一人でも多くの会員に読んでいただき、それぞれの母校への思いを深め、母校愛を高め、同窓会（進交会）への意識の高揚を図ることができたらと願って試験的に実施しました。そして、会員の皆様にお願いした貴重なご意見、ご要望は「持続可能な進交会」に向けて有効に活用させていただきます。と考えております。

コロナ禍で人と人のつながり、ふれあい、仲間との交流、会話の機会も減ってきています。会員の皆様がワクワクン接種を終え、一日でも早く新型コロナウイルス感染症の収束を迎え、安心安全な生活ができますことを願うと共に、皆様が進交会館落成の真の喜びをご享受いただけたら幸いです。

進交会の皆様のご支援に感謝

横浜市立大学学長 相原 道子



昨年度の進交会報にてご支援をお願いいたしました「新型コロナウイルス対策基金」には、

多くの皆様より昨年度末までに件数で約千五百件、金額にして六千七百万円を超えるご寄附をいただきました。うち、半数以上が本学の卒業生からであり、これに加えて、進交会様からは団体として、さらにY校の卒業生の皆様からもご寄附をいただいております。寄附金は、附属二病院の感染防止対策や医療従事者への支援、遠隔授業実施のためのWiFi環境整備、経済的に厳しい状況にある学生への支援等、広く活用させていただきます。また、毎年進交会様のご支援のもと、在学中に優秀な成績を修めた卒業年度の学部生に贈る進交会賞の表彰式を、昨年度も執り行うことができました。皆様のご支援に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、本学でもSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みが進んでおります。今年に入ってから、横浜市立大学同窓会の皆様とのシンポジウム開催、食習慣に関するアンケート調査等、学生・教員が連携・協力させていただき、ゼロカーボンへの取り組みも今後の課題と考えます。

最後に、附属二病院では、現在も新型コロナウイルス感染症の重症・中等症患者の積極的な受け入れを続けています。また、大学では、コロナ禍で困窮する学生への様々な支援も継続しております。今後、進交会の皆様の温かいご支援をお願いいたします。

大学創立百周年に向け さらに邁進

横浜市立大学理事長 小山内 いづ美



進交会の皆様におかれましては、日頃から横浜市立大学に温かいご支援・ご協力をいただき、

厚くお礼申し上げます。この四月に二見前理事長の後任として理事長を拝命いたしました、小山内（おさない）いづ美です。私は、この三月まで、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会の理事長を二年間、その前は横浜市職員として栄区長を三年間務めておりました。

進交会の皆様から新型コロナウイルス対策基金に多くのご寄附をいただいたことに、この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

横浜市立大学は今年度、第三期中期計画期間（六か年計画）の五年目を迎え、これまでの事業の総仕上げに向けて取り組んでまいりました。現在は、令和五年度から始まる第四期中期計画を見据え、さらなる大学の発展のための議論を開始しています。また、第四期中期計画の最終年にあたる令和十年度（二〇二八年）には大学創立百周年を迎えます。この節目に合わせ創立九十周年に立ち上げた三つのプロジェクト「ビジネス人材育成・留学支援」「新たな研究創生」「学校生活・環境改善」を引き続き進めるとともに、医学部・附属二病院等再整備に向けて基本計画策定に着手しております。

百周年とその次の百年につながる未来を見据えて邁進してまいります。進交会の皆様におかれましても、大学の百周年に向けて共に祝い、また次の百年に向けてさらなるお力添えをいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

大学・学生・地域の元気に役立つ 市大同窓会をめざして！

市大同窓会会長・進交会副理事長 金子 延康



横浜市立大学同窓会（市大同窓会）は、長年交流会を開催してきた組織を母

体として、市大創立九〇周年の節目の平成三〇年に、同窓会の役割の充実のため、進交会のもとに再編されました。

コロナ禍のため、同窓会活動が大きく制約されていますが、七年後の市大創立百周年に向けて、市大の全ての学部を超えて卒業生が連携し、市大同窓会の会則にある3つの事業、①会員相互の交流、②大学・学生との連携、③地域・地球の持続的発展（SDGs）への貢献など、オンラインも活用しつつ取り組んでいるところ です。

同窓会の役割としては、昔を懐かしんで交流する機会などを設けることも重要ですが、昨年行ったアンケート調査でも、多くの会員が大学・現役学生との連携やSDGsなどへの貢献の役割を潜在的に望んでいることがわかりました。市大卒業生の会員は約3万人ですが、皆様それぞれ特色ある経験、ノウハウ、ネットワークをお持ちです。一人ひとりの力は大きくなくとも、課題を共有して繋がれば、大きな力になり、難しい課題をも解決でき、貢献が元気に繋がります。

そんな皆さんの思いの実践として、この市大版会報の後半に最近の具体的な事業を紹介していますのでご覧ください。市大同窓会は、会員が繋がりを、大学・学生・地域の元気に役立つ同窓会をめざしています！

会員の皆さん、ぜひ、楽しみながら繋がって、ご一緒に一歩進めましょう！

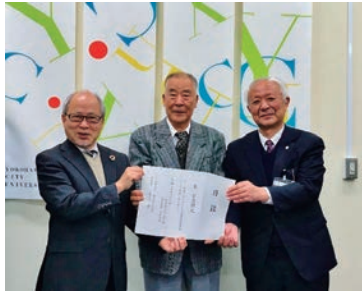
進交会だより

◆事務局だより

◆横浜市大『新型コロナウイルス対策基金』に寄付

コロナ禍で緊急事態の市大病院と困窮する学生の支援のため、令和2年12月に古屋理事長から市大理事長に、100万円（進交会50万円、市大同窓会25万円、Y校会25万円、計100万円）の寄附目録を手渡しました。

市大理事長から、「いただいた寄附金は学生支援のために活用させていただきます。」と感謝の言葉を頂きました。



◆進交会賞・奨学金を授与

○市大生への進交会賞の授与

令和3年3月18日、シーガルホールにて古屋理事長から14名の成績優秀な学生に進交会賞を授与しました。

☆進交会賞受賞者（敬称略）

- 佐々木啓晶、山口紗弥、阿部汐里、今井佳世子、山室仁美、滝本美喜子、服部由佳、関貫達、北田瑛美、石井伴直、神谷慶一郎、井上愛海、西川裕里香、岩田双葉

○Y校生への奨学金授与

令和3年3月2日のY校卒業式で、成績優秀な生徒7名に奨学金を授与しました。

◆令和2年度一般社団法人進交会社員総会

コロナ禍の為、「書面による表決」に変更し実施しました。

その結果、第一号議案 令和2年度事業報告（案）、第二号議案 令和2年度貸借対照表（案）及び正味財産増減計算書（案）承認の件のすべてが承認されました。

◆みなと倶楽部・貸会議室

みなと倶楽部では会員の皆様が安心してご利用いただくために以下のコロナ感染防止策を行っております。

- ・検温、手指消毒の実施
・三密の防止（人数制限及びソーシャルディスタンスの確保・換気）
・アクリル板の設置
・従業員のマスク着用励行

★ご利用の際は必ず事前にご連絡をお願いします。

◆進交会HPをリニューアルしました！

ゼミ、部活、OB・OG会、支部の活動などの周知、交流・連携に広くご利用ください。



正味財産増減計算書総括表

自 令和2年 4月 1日
至 令和3年 3月 31日
(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 一般会計, 特別会計, 美澤基金, 総合計. It details income and expenses for the fiscal year.

貸借対照表総括表

令和3年3月31日現在
(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 一般会計, 特別会計, 美澤基金, 総合計. It details assets and liabilities.

『Y専の歴史』 横浜国立大学の源流を を公刊して

齊藤 毅憲（市大名誉教授）

今年の一月に本書を横浜市立大学新叢書の一冊として、横浜の出版社・春風社から公刊することができた。サブタイトルは「横浜市立大学の源流」としている。

横浜市立横浜商業専門学校（通称「Y専」）は一九二八（昭和三）年にY校の「胎内」で誕生し、一九五一（昭和二六）年に二三年という短い歴史を終えている。そして、Y専は新制大学・横浜市立大学のなかに、その歴史が引きつがれることになった。

つまり、Y専は、Y校と横浜市大を結びつける役割を果たしてきたのである。しかし、Y専が閉校して、すでに七〇年の月日が流れている。この時点で私は、この結節の役割を担ったY専の歴史に光をあててみようと考えた。また、横浜市大にとって、源流となるY専史をまとめおくことが、七年後にむかえる創立一〇〇年のためにも必要であると思ってきた。



『横浜市立大学六十年史』でも私はY専史を分担したが、その際、Y専の資料がきわめて少ないことを感じていた。今回もそれは同じであった。ところが幸いなことに、Y専の卒業生による二冊の文集を見つかることができ、それらをもとにしてなんと一冊にまとめることが可能になった。

Y専を生みだしたY校

Y校は一八八二（明治一五）年に起源をもつ県内では最古の中等教育機関であり、来年は創立一四〇年の伝統校である。Y校の教育レベルは高いと評価されていた。一八九九（明治三二）年の文部省告示で、「本校ヲ高等ナル商業学校ト認定スル、但シ、高等商業学校（高商）ニアラス」と指定されている。

東京の商法講習所を起源とする官立の高等商業学校は一八八七（明治二〇）年に設立され、第二の官立高商となる神戸高等商業学校は一九〇二（明治三五）年、そして神戸との誘致合戦に敗北した大阪は、翌一九〇三年に市立の高商を設立している。

のちに明治の末期には、長崎、山口、小樽に高商が設立される。さらに、高等教育機関が大幅に拡張された大正期には全国に八校の官立高商が設立されている。最初の三校はのちに高商から商業大学に昇格して「三商大」となり、その下に高商が位置する構造となる。そして、この商大と高商の二重構造は、新制大学の発足までつづくことになる。

ところで、さきの文部省告示は、国が高商づくりをスタートさせていた時期の

ものである。「別格高商」といわれ、Y校のレベルの高さは評価されていたが、文部省がY校を高商としては認めていなかったことがわかる。

したがって、Y校には高商への昇格が求められた。それを果すべく、まず、一九九二（明治二五）年から本町外十三ヶ町区会立になっていたY校の横浜市への移管が、その前提として一九一七（大正六）年に実現している。

Y専設立が遅れた理由

しかし、Y校の昇格と、Y専の誕生が具体化するには、それからほぼ十年を要することになる。なぜこれだけの時間が必要であったのだろうか。これには、主にふたつの理由があった。ひとつは「別格高商」と言われ、独自の発展を志向していたY校のプライドの高さと、画一的な教育制度の枠組みのなかのみY校の昇格を認めようという文部省の中央集権的な考え方に、対立があったのではないかと私は考えている。

一九二一（大正十）年、Y校は独自の七年制の中等商業学校となり、これをテコに昇格をはかろうとしている。この間の経過は省略するが、Y校は最終的に、尋常小学校卒業を条件とする本科五年と、旧制中学校卒業を条件とする専修科二年となる。しかし、これでも昇格はかなわず、専修科の年限を一年間延長して三年制とし、ようやくY専の設立が可能になった。ここにおいて本科はY校として残り、そして三年制の専修科がY専になる。

もうひとつは関東大震災の影響である。一九二三（大正十二）年九月に、横浜市

会でY校昇格の具体策を可決することに なっていたが、直前に関東大震災が発生し、昇格の計画は頓挫せざるを得なくなった。Y校の校舎も倒壊したため、昇格よりもむしろ再建にとりかからなければならなかった。さらに、不運なことに、長年にわたって校長を務めていたY校の精神的支柱・美澤進がこのような状況のなかで死去している。

早期に充実したY専

Y専は、設立後の早い時期に充実させている。Y校の校長事務取扱・矢田長之助の陣頭のもとに、Y校の校舎を一部借用して授業が行われている。矢田はY専も兼任し、Y校の三名の教員がY専の教授、二名が助教授に就任している講師レベルでは十七名中六名がY校と兼任していた。要するに、Y専の設立時はまさにY校丸抱えの感が強かった。

Y校生とY専生がY校の校舎に同居しており、Y専設立時の生徒用のガイドブックは両校共用の一冊であり、Y校の名で発行されている。つまり両校は、一体化した「オールY校」であった。

矢田のあと、武田英一が校長事務取扱となり、優秀な教員集めに努力している。そして、一九三二（昭和七）年、山口高等商業学校から前田幸太郎が専任校長に招かれ、Y専の充実に専念する。

一九四一（昭和十六）年までY校校長も兼任する。



前田幸太郎校長

前田は自由なアカデミズムの考え方を重視し、教員採用に心を配るとともに、翌三三（昭和八）年には、横浜の貿易を振興させるために、「横浜経済研究所」を設置している。教員たちはここをプラットフォームにして出色の「アメリカ研究」を生みだしている。しかし、日米関係が悪化するなかでこの研究は中断せざるをえなくなる。

東京商科大学（東京高商から昇格）出身の教師を中心に研究・教育面の充実がはかられたが、教育施設のほうはY校依存が、貧弱であった。とくに学生たちの独立校舎への要望は強かった。

一九三五（昭和十）年、中区の貿易商・松浦吉松の篤志などをもとにして、Y校構内にY専専用の二階建て校舎が建設され、学生たちは自分たちだけの居場所を持つことになった。そして、三年後によくやくのこと、研究室、研究所を併設した図書館が完成している。

戦時下におけるY専の危機

Y専の設立は遅れたが、比較的早期に充実し、高い社会的評価を得られるようになる。

しかし、戦時体制へ移行するにつれて、Y専は以下の危機に直面している。ひとつ目は早瀬利雄、小原敬士という若い力のある教員二名が治安維持法違反を理由に検挙されたことである。一九四〇（昭和十五）年のことであり、かれらは戦争終了前に学校にもどることはなかった。学問の自由はきびしい弾圧をうけている。

ふたつ目は、国は「商業無用論」のもと、商業教育を軽視し、不要とする動き

を強めたことである。商業よりも工業や経済の教育を優先すべきであると、官立の横浜高商については、名称を変更しつつも残存させるが、同じ地区にあるY専は廃止すべきとされる。横浜市はこの国の意向にしたがい、かわりに医学専門学校（横浜医専、横浜市大医学部の前身）の設立を決定する。

専任校長の前田幸太郎と鈴木忠治（味の素二代目社長）らのY校の卒業生の努力と決断によって、学生定員の半減化と校舎の横浜医専への明け渡しを条件にして、Y専はかろうじて存続できることになった。経済専門学校と名称を変えたY専は再びY校の校舎に戻ることになる。

なお、Y校については学生定員の減少はあったものの、県内唯一の商業学校として認められ、残存する。そして、県内の他の中等商業学校はすべて他への転換を求められた。

三つ目は戦争は勤労働員、学生の応募、大空襲などをもたらし、これらによって、学生も教員も苦しい状況におかれたことである。一九四五（昭和二〇）年八月に終戦を迎え、一カ月後に行われた卒業式（六カ月の繰りあげ卒業）の話は、あまりにもつらいものであった。

戦後のY専と横浜市立大学へ

存続の危機にあったY専では、教師のなかに転出する人材もいたが、戦後、早瀬や小原の復帰や教員の補充により、学校は徐々に再生していく。

また、戦時中に学習することができなかった学生が集まり、知的欲求を満たそうとしている。だが、敗戦後の経済不振、

食糧難、住宅難などの社会経済的な環境のもとでは、学生の生活はきびしく、「アルバイト」を行うことで学資や生活費を得なければならなかった。

一九四七（昭和二二）年にY校とY専はY校の六十五周年の記念祝賀会をきわめて盛大に実施している。これをきっかけに、Y校とY専は戦後の再生を強くアピールしようとしたのである。

しかし同時に、この記念祝賀会は「オールY校」の終わりをも意味していた。翌年、新しい学制によってY校は現在の校名となり、翌一九四九（昭和二四）年にはY専のほうは横浜市立大学商学部と改称されて、Y校構内から現在の金沢八景の地に移転することになる。こうして、Y専は在学生の卒業を待って、一九五二（昭和二六）年に閉校している。

評価すべきはY専のアカデミズム

高商の教育は大学とちがって実践的（プラクティカル）である。Y専もその点では同じである。しかし、前田のY専は自由なアカデミズムを尊重し、若い教師たちは懸命に研究にとり組んでいた。

他方、少人数のゼミナール重視の方針のもとで、Y専生も一生懸命に学習している。小原敬士は「教員はみんなよく勉強した。そして、学生諸君もよく勉強した」と回想している。

このような流れのなかで、Y専では教員と学生との協働によってY専アカデミズムがつくられていたのである。これがY専の精髓であり、評価すべきものであると私は思っている。






“I Care Everybody Company”

あらゆる人々に**慈しみ**の心をもって
接する企業でありたい




フローズン事業部
アイスクリーム・冷凍食品の卸売

スーパーマーケット事業部
スーパー生鮮館TAIGAの運営

コロナ禍の「ゴッドハンド輝」

漫画家が漫画で学んだこと

漫画家 山本 航暉 (平元文理卒)

「漫画家にお会いしたのは初めてです。」
実はそう言われることが珍しくありません。私から見ればカフェなどで「ああ、御同業者さんだな」と思うことも多々あるのですが、一般の人には見分けられないのでしょうか。

実際、漫画家なんて漫画を描いてなければ本当に普通の人ですから。
そんなわけで私の代表作は医療漫画の「ゴッドハンド輝」。

週刊少年マガジンで2001年から2012年まで10年以上連載し、TBSでドラマ化に。



昨年は10年ぶりに「ゴッドハンド輝」沈黙のコロナ2020」を発表し、有難いことに単行本は全63巻になりました。私が子供の頃はよく「漫画ばかり読んでないで勉強しろ」と叱られたもので、それが今やMANGAは世界語になり、漫画家はむしろ憧れの職業になりました。オリンピックも直前のドタバタがありながらも漫画とアニメで開会式を乗り越え、

好評を得ました。本当に隔世の感があります。

これも支持してくださる読者さんや視聴者さんの存在あってこそで、本当に有難いことです。



©山本航暉「原作協力・構成監修 天碓莞爾」

横浜市立大学では文理学部国際関係専攻でしたが、当時から漫画を描く時間欲しさに大学に入ったようなものでした。大学4年の春に賞金50万円の新人賞に入選、学内でも結構話題になったので、漫画家になる気満々で就職活動しないでいたら教授に呼び止められ、「本当に食べていけるのか？」と訊かれたのを懐かしく思い出します。

「ゴッドハンド輝」のストーリーをざっくりお話しすると「若いドジな外科医が色々ありながらゴッドハンドと呼ばれる名医を目指す漫画」です。

今でも「witterなどで検索すると」寝違えの治し方」などで引つかるのは嬉しいですね。10年も前の作品でも誰かの役に立っていると感じられるのはとても大きな喜びです。

実は私は医療経験も医学部経験もありません。それでもなんとか漫画を続けられたのはネットがあったからこそですね。ブレインの医師はいましたが医療関係は全て私が原作をしていたので、暇があると医療関係の番組や医師のブログなどを読んで参考にしていました。

ある病院のサイトで「この病気のほとんどは内科的(投薬など)治療で治る。」とあるのを見つけ、「稀に外科的手術が必要な病態があるはずだから教えてください。」と問合せ、実際にその病気を題材に描いた事もあります。

物語の中で輝は「ドジな外科医」であると同時に「死なせない天運を持った外科医」として描かれます。

どうしてこんな設定になったかという少年誌で死を扱うことは難しいのです。死は怖くないと描いた時、少年の場合経験値がないのでどう捉えるかがわからない。なんといっても悪いことに憧れる世代ですから。とはいえ彼らにこそ命の大切さを伝えたい：そう考えた時に逆転の発想で「誰も死なせない天運」を思いついたわけです。

逆に親や教師の言うことには聞く耳を持たない子でも、漫画の中のキャラクターの言葉なら素直に受け止められることもありますね。読者の子どもと、もしくは大人と友達になれる：輝のそんなキャラクターが10年続いた大きな理由です。

もう一つこの作品を描くにあたって自分に課したこと、それは読んだ子供たちが「病院に行くのを嫌がらない」ようにするということです。

コンビニエンスストア、スーパーストア、百貨店、専門店、銀行など、多彩な事業を展開し、時代とお客様のニーズに応え続けるセブン&アイグループ。
私たちは、毎日の暮らしに寄り添い社会とともに進化するグループを目指します。



<https://www.7andi.com>



医師を悪く描くのは簡単なのですが、それでは実害が出てしまう。子供たちはとても狭い世界で生きているので、何かあった時に病院にかかるという選択肢を残したかったのです。

コロナ禍の最前線で働く医療関係者への差別を見てみると、あり得ないという想いととも悲しみが湧いてきます。区別はともかく差別はあつてはいけません。目先のことしか考えない自己防衛本能がどれだけの医療関係者の心を折っているか：コロナに限らず病気はすぐ近くにあり。その差別は必ず自分に返ってきます。

ワクチンは永続的に効くわけでもなく、ウイルスもどんどん変化していきます。さらにこのウイルスは思った以上に悪質で、血管などにも悪さすることを考えると、そう簡単に病院が非日常であった世界には戻らないでしょう。

現在、安い金額で必要な治療が受けられるという意味において、日本は間違いない世界一です。

今この瞬間も誰かのために闘っている人がいる。医療関係者達への敬意だけは忘れてはならないと思います。

さて、10年も連載をしていれば色々あります。

ある時、剣道を取り上げたのですが、忙しさにかまけて蹲踞の姿勢を間違え、軽い炎上状態になりました。

医療分野では間違えないよう、何重にもチェックを受けていましたが、それ以外については表面的な調査のみ。

忙しいことを理由にしてもプロとしてあつてはならない行為。

その時、「誰かが大切に思うことに敬意を払って同じように大切に思うこと」の必要性に気づかされました。

毎週のように取り上げる患者さんが変わるのだから、実際には読者さんそれぞれが思うぐらいいいのは厳しい話です。でもマガジンはメジャー誌ですし、子ども相手に発表する以上、最低限わかっているなければ描いてはいけないことがあります。

傲慢だったなあと思います。それからなんでもできる限り調べようになりました。

誰かが誰かの大切なことに敬意を払えるようになったら、世界を少し変えて行くことができる。そんなふう思うのです。

10年間の週刊連載はとにかく無我夢中でした。漫画界は性別も学歴も全く関係ない：ある意味とても平等な世界ではあるのですが、アンケート結果が悪ければすぐに打ち切られる。毎週、椅子取りゲームをしているようなものでプレッシャーは相当なものです。そんなこともあり「ゴッドハンド輝」が連載終了した後、燃え尽き症候群にかかってしまいました。

それまでずっと医療関係ばかりインプットしてきたので、それがなくなつた時空っぽになつてしまつたのです。その時、手を差し伸べてくれたのが今のボス、弊社の会長です。

「情報量は圧倒的に自然が多い、自然

の中に入らないと元に戻らないよ」と教えてくれました。

例えば鳥の声でも人間の耳に聞こえていないのはほんの一部で、ほとんどの音は聞き取れない。でもその聞こえない自然の音が人間には必要なのだそうです。

だから人間は時々自然に触れに行く。そう考えるととても合点がきました。

私の田舎は豪雪地帯で冬は輸送が完全に止まってしまう。当時はまだ今のようにデータ送信で原稿を送ることも一般的でなかったため、その方を頼って鹿児島に行つたわけです。

その会長が一昨年、サンマリノ共和国大使館の特別顧問になつたこともあり、この7月から鹿児島県鹿屋市で「結SA N M A R I N O」というお店を始めました。そこではサンマリノワインやオリイブオイルなど身体に良いものだけを置いております。

さてここからはSDGsにちよつと関わつて参ります。

サンマリノ共和国はイタリア北部に位置する、世界で5番目に小さい国ですが、長い歴史の中で戦争という選択肢を取つてこなかった平和の国なのです。

とても親日的でコロナが流行る前は毎年「ニッポンまつり」が開かれていて、伊勢神宮の正式な分社となるサンマリノ神社も国内にあります。

血で穢れた事のない土地で作られた葡萄をサンマリノの国営農場が完全オーガニックで製造した、それが「常若サンマリノ神社ワイン」です。日本で取り扱っているのは弊社だけが光栄なことに

東京オリンピックにいらしたサンマリノの大統領も飲まれたそうです。有難いこととです。

こちらは卑弥呼の金印の出た志賀島、志賀海神社と世界遺産沖ノ島をお祀りする福岡の宗像大社にもご縁をいただいた、とても縁起の良いワインとなっています。

そもそも「常若」というのが循環思想やSDGsを表現している言葉なのですが、宗像では毎年海を守るための宗像国際環境会議を行なつていて、弊社もワインの収益の一部を、海を守る活動に関わる宗像大社に寄進させていただいております。

自然を守り、海を守ることは未来を護ること。

漫画にしろ、ワインにしろ、次世代の子どもたちに何を残せるか。

それが大人の責任だと考えています。



ワインの詳細はこちら



市大情報

◆オンライン留学プログラムを実施

コロナ禍で海外渡航が難しい中、国内に居ながら海外の大学の授業が受けられるオンライン留学プログラムを令和2年度から開始しました。

オンラインでも先生と1対1で授業に関する相談ができる機会や現地の学生と交流する機会があり、対面の留学に近い経験を得ることができます。

プログラムの一例として、タイのチェンマイ大学のSDGs(※) + 英語語学研修プログラムやオーストラリアのクイーンズランド大学の英語語学研修などがあり、多くの学生が参加しました。

カナダのウェスタンオンタリオ大学のプログラムに参加した学生は「プログラムのスケジュールが細かく組まれており、フィードバックをもらうことができたため、自分自身に足りないことを理解し、次にどのような行動をすればよいかを明確にすることができました。クラスを共にしたメンバーや先生とは、今でも交流が続いており、コミュニティを広げる上でも貴重な経験でした。」とオンライン留学を振り返っています。



ウェスタンオンタリオ大学

Sustainable

Development Goals

(持続可能な開発目標)の略

◆横浜市立大学の学生数

(令和3年5月1日現在)

学部	学生数	男子	女子
国際総合科学部	936	415	521
国際教養学部	886	221	665
国際商学部	823	415	408
理学部	388	181	207
データサイエンス学部	253	165	88
医学部	医学科	548	346
	看護学科	418	10
合計(人)	4,252	1,753	2,499

大学院

研究科	学生数	博士前期	博士後期
都市社会文化研究科	52	36	16
国際マネジメント研究科	50	44	6
生命ナノシステム科学研究科	118	104	14
生命医科学研究科	111	87	24
データサイエンス研究科	80	74	6
医学研究科医科学専攻	429	38	391
医学研究科看護学専攻	64	44	20
合計(人)	904	427	477

◆数字で見るYCU

留学生数 103人(11カ国・地域)

(令和3年5月1日現在)

海外留学・研修参加者 510人

(令和3年3月31日現在)

・就職率 97.4%

・令和2年度国際総合科学部の就職実績 (全国平均96.0%)

・医師国家試験合格率 94.9%

・令和2年度医学部医学科の実績 (全国平均91.4%) ※既卒含む

・看護師国家試験合格率 98.9%

・令和2年度医学部看護学科の実績 (全国平均90.4%)

・男女比 男子41% 女子59%

(令和3年5月1日現在学部生)

◆YCU通信

「YCU通信」は毎年、卒業生の皆様のご自宅にお届けしている大学発行の卒業生向け広報誌です。大学や在学生の今、卒業生の活躍情報などをお届けしています。広報誌が届いていないという方、住所変更を希望される方はお問合せ先までご連絡ください。

☆お問合せ先

広報課 卒業生・基金担当

Tel. 045 - 787 - 2026

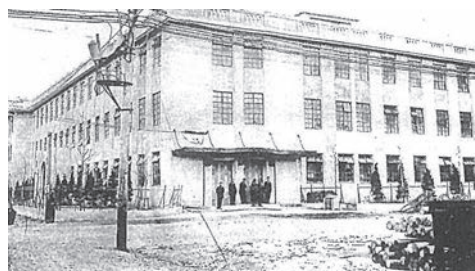
Email: obog@yokohama-cu.ac.jp



Vol.11 令和3年2月発行

◆思い出の風景 (大正13年)

医学部の前身は昭和19年に開校した横浜医学専門学校です。開校当初は横浜商業専門学校の校舎を間借りしていましたが、その年の秋に付属病院となった十全医院に隣接する三吉小学校(横浜市南区浦舟町)に移転しました。この地には現在、横浜市立大学附属市民総合医療センターが建っており、今年創立150周年を迎えます。



新築の頃の三吉小学校 (のちの医学専門学校校舎)

2028年は大学創立100周年!

あなたの思い出の写真で百年史を彩りませんか?

周年史に掲載する写真を募集しています。詳細は、下記連絡先までお問い合わせください。



横浜市立大学
百年史編集委員会 事務局 Tel. 045-787-2076

※原則、ご提供いただいた写真は返却いたしません。

新型コロナウイルス対策基金 ご支援の御礼およびご報告

横浜市立大学は新型コロナウイルス感染症患者の治療にあたる附属2病院や、学生への経済的支援のため「新型コロナウイルス対策基金」を設置し、大学・病院への支援を募っています。

おかげさまで、皆様からのご寄附の総額は7月末時点で約7,400万円に達しました。これも皆様の温かいお気持ちのおかげであると教職員一同、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

お寄せいただいた寄附金は、附属2病院の感染防止対策や医療従事者への支援、および学生の経済的支援のほかサーマルカメラ導入によるキャンパス内の感染防止対策、遠隔授業実施のためのWi-Fi環境整備などに活用させていただいております。皆様からのご支援により迅速な対応ができました。重ねて御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないなか、今後も学生や附属2病院の活動をサポートするため、新型コロナウイルス対策基金の募集を継続しております。引き続き皆様のご協力をよろしく願いいたします。



寄附金を活用した感染対策の一例
オンライン授業のためWi-Fi環境整備しました。

寄附実績

令和2年5月12日～令和3年7月31日

寄附金総額 74,226,034 円

寄附件数 1,688 件

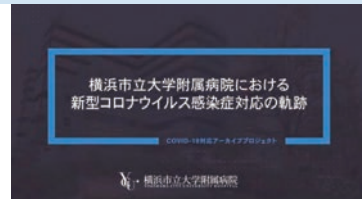
附属2病院の新型コロナウイルス感染症対応の記録動画を公開

横浜市立大学附属市民総合医療センターでは、令和2年1月、武漢からの帰国者対応で医療スタッフを派遣して以降、「地域医療最後の砦」の病院として新型コロナウイルス感染症に対応してきました。同時に横浜市立大学附属病院でもダイヤモンド・プリンセス号の横浜港岸の初期から患者を受け入れ、重症・中等症患者治療の中核的医療機関として、今日まで新型コロナウイルス患者の治療にあたっています。未曾有の事態に対応する不安や様々な課題に対して、附属2病院の職員がどのように考え、どのように乗り越えてきたか、その記録を動画にしました。ぜひご覧ください。

附属市民総合医療センターの記録動画の視聴はこちらから



附属病院の記録動画の視聴はこちらから



詳しい情報は同封の募金趣意書、または大学Webサイトをご覧ください。

横浜市大 コロナ基金

検索

インターネットからもお申込みいただけます。



問い合わせ先

横浜市立大学 基金担当

TEL: 045-787-2447

E-mail : kifu@yokohama-cu.ac.jp

市大生の活動

◆在校生の起業 StockBase

関 芳実・菊原 美里(国総4年)

横浜市立大学の四年目を休学し、今年四月に学生二名で株式会社StockBaseを設立いたしました。「企業の廃棄を削減し、循環型社会を実現する」というビジョンを掲げ、企業で廃棄されそうになっているモノを欲しい人や必要としている人に届けて有効活用するマッチングプラットフォームを提供しています。



(取締役 菊原美里/代表取締役 関芳実)

今年の十月、StockBaseの前身となるプロジェクトが開始し始めました。企業で毎年大量に廃棄されている新年の挨拶用カレンダーを高齢者施設に届ける学生ボランティアに参加したことがきっかけです。社内では不要とされていたものが、高齢者の方にとっては薬の飲み忘れ防止やスケジュール管理に役立っており、一ヶ月で600点が引き取られ有効活用されました。「誰かにとって不要なものは、他の誰かにとって欲しいものかもしれない」そこをうまくマッチングできれば、廃棄が削減できて有効活用も実現できると思い、プロジェクトを始動しました。

企業の廃棄を探す中で着目したのが、購入量で処分量を調節できない『災害備

蓄品』です。企業には社員の三日間分の食料を備蓄する努力義務が定められていますが、期限が来るとその大量の処分先に困る企業が多いです。一方で、フードバンクなどの食支援を希望する人数はコロナ禍で拡大し、支援できる食品が足りていない状況であることもわかりました。

余っている食品があつて、その日の食料にさえも困っている人が大勢いるにも関わらず、お互いを認識していないことによつて大量の食品がムダになっている状況を変えたいと思い起業しました。廃棄せずにマッチングをすることでフードロスの削減と食支援を同時に行うだけでなく、フードバンク団体や子ども食堂などの食支援団体と企業間で近距離マッチングを行い、地域社会への還元と、寄付コストの削減を実現しています。

既に約三十団体とのマッチングを実施し、ひとり親支援や学生支援、加えて熱中症対策を行う建設会社などに幅広く有効活用していただいています。また、備蓄品に限らず、販促用ノベルティの文房具やマスク等も喜んで受け取っていただきました。

皆様の会社でも、廃棄されそうなモノがございましたら、ぜひ地域での有効活用をご検討ください。



(横浜市立大学でのフードサイクル)

StockBase : info@stockbase.co.jp

◆男子硬式庭球部

寺井 純弘(国総4年)

男子硬式庭球部は、現在1年生4人、2年生3人、3年生1人、4年生5人の計13人で、週2回活動しています。

関東大学テニスリーグ6部に所属し、5部昇格を目指して日々練習に取り組んでいます。

コロナ禍であり練習時間が制限されているため、思うように練習や試合ができない状況ではありますが、OB、OGの方々にご支援いただき、また日々の練習にご参加いただいてアドバイスなどをしてくださるおかげで、このような中でも部員一人一人プレーの向上に努めることができており、大変ありがたく思っています。

令和3年度は、去年度の大会の中止で力を発揮できなかった分、全力で取り組んで参りますので、温かいご支援をよろしくお願いいたします。



◆ピアノ会

高橋 遥希(国教3年)

横浜市立大学ピアノ会には現在25名の部員が在籍しています。部員のピアノ歴は初心者から15年以上の経験者があり、曲のジャンルはクラシックの他にもジャズやポップス、アニメソングまで自由に幅広く演奏しています。

主な活動として、6月と12月の定期演奏会や学内で6月末に開催されるピアガーデンと浜大祭ステージでの演奏、横浜マラソンや金沢区のイベントにてピアノの演奏を行っております。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年度は演奏の機会が減ってしまいましたが、収束後、またイベントでの演奏を頑張っています。

OB、OGの方にはいつも定期演奏会の際にお越しいただきありがとうございました。

よりよい演奏をお届けできるよう練習に励んで参りますので、演奏を見に来ていただければ幸いです。



◆三浦半島研究会

松山 明寿香(国商2年)
大武 和生(国商2年)

私たち三浦半島研究会は、「三浦半島を網羅し、遊び尽くす」をモットーに、現在約60人の部員で活動している団体です。三浦半島各地でフィールドワークを行い、そこで得た経験や思いを記録するためのクリエイティブ活動を展開するほか、三浦半島を盛り上げるイベントを主催し、参加することで、地域に根ざした存在になることを目指しています。

2018年の発足以来行ってきた活動実績が認められ、2020年度には正式な文化系部活動へと昇格を果たしました。

コロナ禍においても、安全面に十分配慮しつつ精力的に活動しており、中でも2021年4月に金沢八景駅前で開催した「ちいさな駅前半島マルシェ」は大盛況を収めています。地元・金沢八景を愛する多くの方々によるご協力のもと、オリジナル弁当の販売をメインに八景の食の魅力を発信しました。外出自粛の影響で人との交流が制限される中、リアルなつながり、会話だからこそ得られる温かさを全身で感じ、全部員が第二の故郷がここにある、と実感できました。第二回の開催もすでに構想中です。



◆環境ボランティアStepUp↑

久保田 貴一(国総3年)

こんにちは！私たちは横浜市立大学のボランティア団体「環境ボランティアStepUp↑」です。現在は3年生6人、2年生1人、1年生5人の計12人で活動しています！今年で22期になりました。

コロナ禍になる前は、夏休みに子どもたちと触れ合う「寺子屋」、イオンの「黄色いレシート」活動、クイーンズスクエアで行われた「森の学校」という活動に主に取り組んでいました。ボランティア活動という点、他者に貢献しなきゃいけないというイメージがあるかもしれませぬ。しかし、これらの活動は「人とふれあう」ことを通じ楽しみながらボランティアができるものとなっており、生徒一人一人が和気あいあいの雰囲気を作り、主体的に参加していました。現在はコロナ禍でもできる活動を模索し、5月から海岸の清掃を始めました。この活動においても、部員同士で協力し合うことで、楽しみながら清掃を行うことができている。例えばごみを分別する際には、少しでもわからないことがあれば学年問わずお互いに尋ねたり、協力して大きなごみを拾ったりと、上下関係にとらわれない明るい雰囲気をつくれています。今後は、よりいろいろな活動に取り組み、もっと楽しいStepUp↑がくれるよう、尽力してまいります！よろしくお祈りします。



◆La Fraise

宮澤 麗奈(国総3年)

近年話題のサステイナブルな生理用品である、布ナプキンを製作するイベントを7月7日にYCUスクエアにて行いました。私たちの活動は2019年に始まったばかりですが、残念ながら後続のメンバーがいなかったため、解散する運びとなりました。2年間という短い時間の中で、賞を頂いたり企業や同窓会の方々に応援していただいたりなど、多くの方のお力添えによって活動できました。この場をお借りして御礼申し上げます。今回は有終の美を飾るイベントとして、アメリカで製作予定だった布ナプキンを作るワークショップを行いました。一緒に机を囲めるくらいの小規模開催ではありましたが、ジェンダー問題にとりわけ興味関心が高いメンバーが集まり、裁縫しながら意義深い議論が出来た時間でした。日本の地域や時代ごとの家族における父親のあり方の違いや、日本で性の話がタブー化されている原因と解決策など、日頃の問題意識をざくざくばらんに話し合いました。

グループ活動は閉じてしまいましたが、今後ともジェンダー問題に向き合い続け、気軽にジェンダー観や性についてディスカッションできる社会を追求していきたいと思っています。



まごころ・信頼・サービスをお届けします。



- 業務用酒類卸 ●スーパーマーケット
- お酒スーパー ●業務スーパー

〒232-0016 横浜市南区宮元町4丁目9番地 TEL 045(741) 4747

Y校から今日(イマ)を目指して職人に賭けた『一生』
質実剛健を旨とし誠を尽くす職人になろうと
今、創業104年
量と値、小修理の専門店。和の文化を守る。

森下和装工業株式会社

代表 森下 正勝

昭37年Y校卒(硬式野球部)

〒245-0004

横浜市泉区領家3-9-7 電話 045-811-4696



森下正勝 著(文芸社)
『戦後日本の 光と影』絶賛発売中

市大同窓会の活動

同窓会の活動にご参加ください

市大同窓会会長 金子 延康(商昭52卒)

◆同窓会の諸活動にご参加ください。

市大同窓会は、コロナ禍の大きな制約はありますが、会則に基づき、①会員相互の交流、②母校の発展への貢献、③地域・地球の持続的発展(SDGs)への寄与を目的として、今できる諸活動を進めています。

会員同士、大学が繋がることにより、同窓生が大学・学生・地域に貢献出来ます。ぜひ、諸活動にご参加ください。

◆連絡用に皆様のメールアドレスを送ってください。
市大同窓会員の皆様への事務局からの連絡や、同窓会事業のお知らせなどのため、①名前 ②卒業年次 ③学部 ④メールアドレス(必須) ⑤携帯番号を次のQRコードからお伝えください。もしくは、事務局宛に送ってください。
ycurunion@gmail.com



◆fb市大同窓会にご参加ください。

フェイスブック(fb)に、「横浜市立大学同窓会」を開設しています。同窓生の情報共有と交流を楽しんでください。

◆市大同窓会会費の納入をお願いします。
市大同窓会の諸活動は皆様からの会費で成り立っています。会則により、年会費二千元、(終身会費二万円)です。会費納付は、(ゆうちょ銀行口座)〇二九(ゼロニキュウ)支店、当座0089065横浜市立大学同窓会宛に願います。

◆市大同窓会社会貢献活動

市大同窓会・進交会事務局 西尾 留美子

市大同窓会には、2019年度の総会で採決された会則「会員の進交を図るとともに、地域社会の健全なる進歩発展(SDGs)に貢献することを目的とする」があります。市大同窓会は2020年からオンラインミーティングを重ね、同窓生の経験や、ネットワーク、知恵を生かし、地域や大学、現役学生と連携を図ることによって、社会課題の解決に近づけるのではないかと、活動を始めました。

「誰一人とり残さない」と掲げるSDGs活動は貧困、飢餓、気候変動、人権、教育などの問題解決に向けて17の目標、その中にSDGsのターゲット、更にSDGsの指標というように分岐があり、どこからでも取り組めばそれが社会貢献に繋がる仕組みです。市大同窓会の活動もSDGs活動に位置付けることができます。以下、活動のご報告です。

◆YCU REUNION SDGsシンポ2021

基調講演のあと、市大の学生や学生団体も参加し活発なディスカッションが行われました。



“YCU REUNION SDGsシンポ2021”



◆学生の食習慣アンケート調査

市大教職員の皆さまにご協力をいただきアンケート調査を実施したところ、朝食の欠食率(種類が極少の朝食も欠食扱い)が33%と高いことが分かりました。

分析結果を大学側とも共有させていただきました。学生健康管理のために活用していただけたら幸いです。同調査には同窓生も85名参加、朝食欠食率は31%でした。

分析・考察には、他大学の同窓生研究者の先生たちにも多大なご協力をいただき、講演会では朝食欠食のもとならず悪影響について教えていただきました。

◆海岸清掃活動ほか環境活動

金沢八景キャンパス近くの野島海浜は横浜で唯一天然の砂浜が残っているところですが、その砂浜には東京湾に漂っているマイクロプラスチックが集積しています。

数名の同窓会員が月に一度の清掃活動に参加しています。啓発活動として、映画「マイクロプラスチック・ストーリー」のオンライン上映会を行いました。また、海の豊かさを守る地元の活動や、環境問題を紹介する環境教育資料を作成しましたが未完了です。



◆SDGs活動を進める学生団体

「サステナブル・シーフード(サスシ)を学食に！」と掲げるTEHS(テフズ)には、アンケート調査協力や、業界に詳しい社会人とのオンラインミーティングを設け、また、その他教名からの意見やアイデアを伝えました。

市大の学生団体TEHSでは、現在、SDGsへの導入を促進するために、学食に活動の場を設けていただき、アンケートやサスシに関する講座を開催し、また、私たちがSNSで発信している内容を、ぜひ私たちにチェックしてください！



また、アフリカの「月経貧困」に取り組むゼミ生グループLa Femmeとの交流もありました。近頃は、環境活動に取り組む団体や、まちづくり活動に参加する団体とも連携を始めたところです。

◆ YCU REUNION SDGs オンラインセミナー

SDGs目標17のうち日本で最も達成できていない項目の一つが目標5「ジェンダー平等」であることから、4月からジェンダー問題を多く取り上げました。2月・野島清掃活動実施NPO団体のセミナー「海をつくる活動」

・SDGs推進のためのデザインフォーチェンジ(ワークショップ)

・市大非常勤講師によるセミナー「CSRとSDGs」

3月・ヤングン在住日本人による「ミャンマーからの報告」

・SDGs活動を進める横浜市職員による「横浜市リビングラボの取り組み」

4月・ユニセフ学習ボランティア講師による「アフリカ・サヘル地域の貧困問題」(前半)と、同地域の「ジェンダー問題」(後半)

5月・市大の国際教養学部・大学院教授による「ジェンダー基礎講座」(前半)と、「世代を超えてジェンダーを語ろう!」(後半)

6月・在インド日本人の国際ソーシャルコーディネーターによる「インド・グジャラート州の天災・人災におけるパンデミック下のジェンダー問題」(前半・後半)

7月・NPO法人ソフトエネルギープロジェクト代表による「ソフトエネルギーを使って温暖化にブレーキを!」

・横浜の芸術文化に多大な貢献をし、

市大や放送大学で講義をし、フランスの芸術文化勲章「シユヴァリエ」受賞者である同窓生のライフヒストリー「私の歩んだ道」

8月・消費生活アドバイザー、環境問題カウンセラーによる「サステナブルシーフード 海のエコラベル」

オンラインセミナーは遠隔地からの参加も可能であり、北海道や近畿、四国、海外からもご参加いただいています。しかし、インターネットを普段利用していない方やパソコン操作の苦手な方にはハードルの高いものもありますので、そういう方にお届け出来ないのが非常に残念です。

とはいえ、SNS (Facebook)「横浜市大同窓会公開G」での各セミナーのご案内やご報告が多くなるの皆さまの目にとまり、セミナー参加者が増加しています。また、SNSでは同窓生同士の情報のやりとりも頻繁に行われており、賑やかなコミュニケーションの場となっています。近頃は現役学生や卒業間もない同窓生、教職員の皆さまの参加も増えています。

金子同窓会長のモットーは、「地域や社会、あるいは世界や地球にとって何が必要か真剣に考える」、次に「自分には何ができるか、真剣に考える」そして最後に「考えたことを行動に移す」です。事務局は「自分」を「同窓会」に置き換えて、いつも考え、そして考え、行動に移そうとしています。

同窓生の皆さまには引き続き、ご指示、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

同窓生の皆さまには引き続き、ご指示、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

同窓生の皆さまには引き続き、ご指示、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

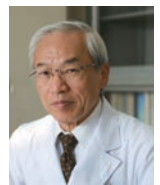
同窓生の皆さまには引き続き、ご指示、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

同窓生の皆さまには引き続き、ご指示、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

同窓生の皆さまには引き続き、ご指示、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

◆「俱進会」の活動紹介

会長 遠山 慎一(医昭44卒)



横浜市立大学医学部の沿革を紐解くと、昭和19年に前身である横浜市立医学専門学校が開設され横浜医科大学を経て現在の医学部へと繋がります。この間に附属病院も福浦と浦舟の二病院体制となっています。俱進会は、昭和24年卒業の1期生から令和3年卒業の72期生までの卒業生を中心に、医学部や附属二病院で研究・診療・教育に従事する者で入会を希望する者及び医学科の学生を加えて約600名の会員を有する同窓会です。会員の多くは近隣の病院勤務医や開業医として地域医療を支えています。会員の勤務先地域は、神奈川県内73%、東京都内12%、その他15%の割合で、神奈川県内の勤務先内訳は、勤務医が76%、開業医が24%の割合です。また俱進会では会員の相互扶助を目的とした様々な事業を展開しています。

会報(俱進会たより)発行などの広報事業、若手医師留学支援、スクラブ授与などの若手育成事業、会員病院長会議、会員老健施設長会議などの情報交換会、その他卒年別クラス会の開催、地域別支部会の開催、医師保険の提供、開業祝品の贈呈なども実施しています。学生向けとしては、新入生歓迎会、海外研修支援、教育支援、白衣授与、6年生の会開催、スクラブ授与などの事業があります。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

俱進会は常に会員に信頼されるべく運営に努めております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

◆看護交流会の活動紹介

会長 前澤 美佳(医看平29卒)



「看護」交流会は、現在900名を超える在校生・卒業生の皆様にご加入頂いております。本交流会

は、会員相互の親睦と、卒業生・在校生のキャリア発達支援を目的とし活動を推進しております。具体的な活動内容としては、在校生の海外短期留学等への資金援助や、附属2病院に就職した卒業生対象の親睦会「ホームカミングデイ」、在校生が卒業生に就職や学業について気軽に相談できる「オフィスアワー」等があります。これらの開催は例年多くの参加があり、在校生・卒業生の皆様から好評を頂いております。昨今は、新型コロナウイルスの渡航や大人数での会食をともなう集会などが開催できない状況にありますが、本交流会では代替の支援・開催方法を模索し、会員の皆様に還元できるように活動を検討しております。

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、本交流会としても看護学科のこれまでの歩みを振り返るとともに、在校生・卒業生の皆様のご活躍、並びに横浜市立大学の益々の発展を後押しできるように尽力して参ります。進交会の皆様におかれましては、今後とも「看護」交流会の活動にご協力頂きますよう、何卒宜しくお願い致します。

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、本交流会としても看護学科のこれまでの歩みを振り返るとともに、在校生・卒業生の皆様のご活躍、並びに横浜市立大学の益々の発展を後押しできるように尽力して参ります。進交会の皆様におかれましては、今後とも「看護」交流会の活動にご協力頂きますよう、何卒宜しくお願い致します。

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、本交流会としても看護学科のこれまでの歩みを振り返るとともに、在校生・卒業生の皆様のご活躍、並びに横浜市立大学の益々の発展を後押しできるように尽力して参ります。進交会の皆様におかれましては、今後とも「看護」交流会の活動にご協力頂きますよう、何卒宜しくお願い致します。

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、本交流会としても看護学科のこれまでの歩みを振り返るとともに、在校生・卒業生の皆様のご活躍、並びに横浜市立大学の益々の発展を後押しできるように尽力して参ります。進交会の皆様におかれましては、今後とも「看護」交流会の活動にご協力頂きますよう、何卒宜しくお願い致します。

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、本交流会としても看護学科のこれまでの歩みを振り返るとともに、在校生・卒業生の皆様のご活躍、並びに横浜市立大学の益々の発展を後押しできるように尽力して参ります。進交会の皆様におかれましては、今後とも「看護」交流会の活動にご協力頂きますよう、何卒宜しくお願い致します。

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、本交流会としても看護学科のこれまでの歩みを振り返るとともに、在校生・卒業生の皆様のご活躍、並びに横浜市立大学の益々の発展を後押しできるように尽力して参ります。進交会の皆様におかれましては、今後とも「看護」交流会の活動にご協力頂きますよう、何卒宜しくお願い致します。

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、本交流会としても看護学科のこれまでの歩みを振り返るとともに、在校生・卒業生の皆様のご活躍、並びに横浜市立大学の益々の発展を後押しできるように尽力して参ります。進交会の皆様におかれましては、今後とも「看護」交流会の活動にご協力頂きますよう、何卒宜しくお願い致します。

横浜市立大学は、2028年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向け、本交流会としても看護学科のこれまでの歩みを振り返るとともに、在校生・卒業生の皆様のご活躍、並びに横浜市立大学の益々の発展を後押しできるように尽力して参ります。進交会の皆様におかれましては、今後とも「看護」交流会の活動にご協力頂きますよう、何卒宜しくお願い致します。

支部だより

北海道支部からお知らせ

支部長 佐藤 敏明(商昭58卒)

北海道支部の立ち上げをし、その後長らく支部長を務めた柿本胤二氏(Y専第16期)が20年程前に支部長の任を退いてからは諸先輩が一定期間ごとに持ち回りで支部長を務め、2年前からは若輩の私が務めております。毎年11月に年一度の例会を行っております。柿本氏の他松原六郎氏(Y専第15期)も毎回出席される等元氣な先輩が多い一方若い現役世代の会員の参加が少ないのが悩みの種であります。現役世代の方々の中には一定の時期に札幌に赴任している者も多くいます。進交会北海道支部の存在がアナウンスでさす、会の存在を知らずに札幌赴任期間を終える方もいると思われまます。昨年はコロナ禍で止む無く中止と致しました。皆様にお集まりいただくことが可能な状況になりましたらまた例会を行います。その時はこの会報をご覧の北海道在住の方々、一人でも多くの者にご出席いただけるよう期待しております。

事務局 石岡 至信(商昭60卒)

〒040874

札幌市清田区平岡4条6丁目3-1

☎011-886-3870

名古屋支部の活動紹介

支部長 正田 要一(商昭52卒)

進交会名古屋支部は、50年以上にわたり、定時総会・懇親会を毎年開催してきましたが、平成30年10月が最後の開催となりました。令和元年10月は、大型台風接近のため、やむなく延期としました。令和2年早々に開催できると考えていましたが、その後の新型コロナウイルス感染拡大に

より、二度も会場をキャンセルすることとなりました。何とか開催しようとする焦りが、一度ならず二度までもキャンセルし、お店には多大な迷惑をおかけしました。せめてもの穴埋めに、と幹事だけで集まり利用は致しました。

大学及び進交会事務局のご紹介のお陰で、東海テレビ、名古屋鉄道、中日新聞社などに入社した新入社員の方から挨拶のご連絡はいただきます。残念ながら、総会・懇親会を開催できないため、会員に紹介もできず、累積の未紹介人材は相当数になります。

はるか以前に、出席した支部の懇親会の後に、先輩方に連れて行っていた二次会の席は勉強になりました。ママさんへのポチ袋を渡しながら優遇を頼むテクニクや、壁にかけてある絵画の見方など、高度教育を受けた実感は忘れません。

名古屋支部では、Y校卒・市大卒を分け隔てなく、進交会会員として対応しています。その心は『数の確保』にあります。支部として永続するには、まずは「数」と認識します。

一日も早くコロナが収束し、日常生活が戻った折には、安心して支部の懇親会を開催し、後輩たちに先輩から受けた高度教育の教えを伝えていきたいと願っています。

近畿進交会の活動紹介

会長 麻野 広行(商昭50卒)

近畿進交会は、「会員の皆様が青春を横浜で過ごされた仲間として語り合える同窓会になれるよう継続的に活動します」をコンセプトとして、私達は「一期一会のご縁を大切にします。近畿進交会会則(第1章(第8章))を紹介いたします。第1章総則より設立は昭和57年1月26

日にて近畿進交会への改称は平成13年1月(創立30年にて)とする。第2章目的及び事業より、この会は会員相互の親交を図ると共に母校並びに進交会本部との連絡や情報交換を目的とする。また機関紙「しんこう」を発行。第3章会員より正会員とは、横浜市立大学及びY校(横浜市立横浜商業高等学校)並びに各校の前身校(Y専)の卒業生で近畿地区に在住もしくは在勤するものとします。第4章運営費(8000円/年)、第5章役員及び任務より会長・副会長・事務局長・編集長・常任幹事・幹事・会計監査・相談役・顧問の役員を置く。

この会の役員の任期は2ケ年とし再任を妨げない。第6章会議では、正副会長打合せや幹事会(3回/年程度)と編集会議(2回/年程度)の開催とする。会員相互の親睦を図ることを目的として「集い」を開催(1回/年)し同時に総会を実施する。第7章会計より総会と「しんこう」にて会計監査の意見を付け会員に報告することを定める。第8章会則の改定。



来賓として二見市大理事長、丸山進交会常務理事、市大事務局鎌倉様をお迎えして令和元年度近畿進交会総会・集いを開催。

祝・芥川賞! 李琴峰

『彼岸花が咲く島』

王 維美(商昭62卒)

第165回芥川龍之介賞が発表され、台湾出身の作家李琴峰さんの『彼岸花が咲く島』が受賞作に選ばれました。台湾出身者による芥川賞の獲得は初めてです。同じ出身地の私も誇り高く思っております。

母国語でない日本語で、日本文学で最高の登竜門と言われる賞を獲得できたのは、真に李さんの並々ならぬ努力によるものに違いありません。語学の勉強は地味な努力と熱意がなければ達成できないものです。李さんは台湾大学中文系を卒業した経歴から、中国語の造詣も深く、身に付けた教養で日本文学に没頭し、それが今日の成功に繋がったのでしよう。李さんを見て、同じ台湾人として、光栄に思うと同時に自分に対し赤面の至りです。私も日本語を勉強し始めてから長い年月が経ちましたが、とても李さんの足元にも及びません。私は常にその言葉の正確性に不安を抱えています。でも、李さんは努力を積み重ね、その不安を一つ一つ消していった、誇り高き賞を入手することができたと思います。とても素晴らしいことです。私は日本語を話している時、いつも文法やニュアンスなど、その言葉が正しいかどうか悩まされているものの心のどこかに「外国人だから多少間違っても大目に見てくれるでしょう」と、甘えがあります。当然、成果も大きく変わってくるものだと思います。李さんの成功を心より喜んで、これから私も含め、日本語を勉強している方も、日本留学を目指している方も、李さんを鏡として精進していったほしいと願っております。

同窓生だより

第十三回「鷗走会総会」開催

岩崎 正義(商昭47卒)

五月二十九日(土)に進交会館の大会議室で第十三回「鷗走会」総会を開催しました。「鷗走会」はY専と市大の陸上競技部が創設八十周年迎えたことを記念して、競技会での応援や金銭的支援を目的に、二〇〇九年に設立された陸上競技部のOB/OG会です。昨年は新型コロナウイルスの影響で、鷗走会総会を開催できず、会員からは、電子メールにて前年度の決算と予算の承認を得ました。今年度は進交会館での開催が可能となり、二年ぶりに集まったの総会でした。コロナの影響はまだ続いており、参加者が十一名と少なかつたものの、遠くは静岡県掛川市や茨城県石岡市からの会員が出席した総会となりました。市岡会長を始め現役の横市大陸上競技部主将と副務が出席し、昨年度の決算報告や今年の予算の承認を経た後、主将から部員各自の今年の目標などの説明があり、鷗走会会員からは現役部員へのアドバイスなど活発な意見交換がありました。

総会後、みなと倶楽部にて、昼食会が開催され、和やかな歓談の後、解散しました。みなと倶楽部ではテーブルにアクリル板を設置して飛沫防止を図るなどコロナ対策を取っていただき有難うございました。

鷗走会事務局

税務会計専門家の集い(青葉会)

青葉会幹事・岡崎 隆造(商昭51卒)、

金谷 直(商昭60卒)

日頃から付き合いのある会計士仲間を母体として8年前に発足し、現在では、税理士、会計士に止まらず、広く企業向けコンサルを行っているメンバーも参加し、年2回横浜中華街の青葉新館(市大卒の楊税理士のお姉さんが経営)にて美味な台湾料理に舌鼓を打ちながら、各自の近況報告や業界の話で盛り上がっています(過去2年はコロナ禍で中止)。

今までに会計関連の三浦先生、張先生、黒木先生に止まらず、川内先生、中條先生、大澤先生にもご参加頂き、市大事情や学生気質などの貴重なお話をお伺いする機会も得ています。

さて、現在、市大卒業生の所属ゼミ、部活や業界等の限られた繋がりを卒業生全体に面展開して組織化したい意向があると了解していますが、コンサル的な立場からのアドバイスとしては、市大卒業生の特徴として地味ながら生真面目な方々が多い(?)との前提にたちますと、自然科学、人文科学の分野にて卒業生が興味を抱くようなウェブ講座を有料で定期的に開催し、それをきっかけとして卒業生に母校の現状に関心を持ってもらうことも有効な手段ではないかと考えます。青葉会にご興味がある方は、是非

ご連絡下さい。



Y・X LinkedIn

世界最大級のビジネス特化型SNS「LinkedIn(リンクトイン)」上には、世界中に1,500人以上の横浜市立大学(YCU)ネットワークがあります。グローバルなフィールドで活躍するOB・OGとつながりたい方は、ぜひ「横浜市立大学カレッジページ」をご活用ください!

LinkedInを開いて、「横浜市立大学」と検索してください!

<https://www.linkedin.com/edu/yokohama-city-university-14421>

横浜市立大学卒業生担当 **facebook** ページ

大学・キャンパス・金沢八景の「いま」、卒業生・在学生の活躍など、卒業生のみなさまが「いいね!」と思う情報を発信してまいります。ぜひチェックしてみてください!

facebookを開いて、「横浜市立大学卒業生担当」と検索してください!

<http://www.facebook.com/YCUalumni>

市大SNS

市大同窓会総会2021
お知らせ

日時 令和3年10月30日(土)
午前11時~12時30分

場所 進交会館3階会議室

*オンライン(zoom)併用します。詳細はHPをご覧ください。

総会のURLはこちらから→

ID: 899 2932 2394

パスコード: 756013

横浜市立大学では、卒業生の皆様にSNSを利用して大学情報をお届けしています。ぜひチェックしてみてください。

麵処 おおぎ (進交会館1階)

うどんと酒肴

おおぎ

◎馬車道・横浜市役所前店(進交会館1F)
横浜市中央区相生町6-111 電話 045-681-2152

◎大通り公園前本店
横浜市中央区蓬萊町1-1-3 電話 045-243-0390

◎常磐町店
横浜市中央区常磐町3-22-3 電話 045-232-4040

tatesin 商業施設・オフィス・リノベーション・設計施工

株式会社タテシン

会長 渡辺清和
(Y校 昭和45年卒 バドミントン部)

一級建築士事務所

〒232-0022 横浜市南区高根町4-29

☎045-242-1320 ☎045-262-4026 (不動産部)

訃報

山崎泰男 (昭48文)	木村さよ子 (昭46一看)	水本洋一 (昭39商)	竹村日出夫 (昭37文)	佐藤雍之介 (昭35商)	大石俊雄 (昭35商)	上村道芳 (昭33商)	後藤雅彦 (昭30商)	秋浜雅彦 (昭30商)	宇山豊春 (昭24専)	平成30年	浦田昌美 (昭53文)	丸浜江里子 (昭49文)	風間雅子 (昭48文)	岡田宏美 (昭41商)	奥泉博 (昭38理)	納堂昌哉 (昭38文)	鬼頭登 (昭37理)	井田誠二 (昭35理)	藤島孝太郎 (昭34商)	山崎輝雄 (昭31商)	井村年晴 (昭30医大)	吉村彰夫 (昭28商)	平成29年	角田静香 (平14看)	堀井吾朗 (昭60化)	白井一隆 (昭33商)	前山武徳 (昭31商)	前田一郎 (昭31商)	三木宏城 (昭26医)	石井敏昭 (昭23専)	平成28年	前川泰彦 (昭44商)	池田宏 (昭37理)	平成27年	石井悟 (昭22専)	平成26年	有馬正秀 (昭24医専)	平成18年	松尾修三 (昭31商)	平成16年
大島信淳 (昭35商)	掛田公明 (昭34商)	岡本俊雄 (昭34商)	市川哲郎 (昭33文)	原田代夫 (昭33商)	今井昌二 (昭33商)	渡辺純一 (昭32文)	浜野朋和 (昭32商)	畑崎嘉和 (昭32商)	野崎朋和 (昭32商)	磯部富子 (昭31商)	辻野正夫 (昭31商)	松嶋和年 (昭30商)	西村暁進 (昭30商)	斉藤進 (昭30商)	金子弘志 (昭29商)	望月明 (昭24専)	大塚寿一 (昭23専)	岩井平一郎 (昭19専)	谷口政巳 (昭17専)	重田富太郎 (昭17専)	令和2年	大内清博 (昭48文)	中村友博 (昭46文)	菅田義一 (昭41商)	棚橋隆二 (昭36文)	勝部広司 (昭36商)	江端元雄 (昭35商)	遠山治伸 (昭31文)	佐藤達雄 (昭29商)	長尾伸雄 (昭29商)	小川保治 (昭27商)	勝保治 (昭27商)	令和元年	小金井義弘 (昭40文)	井村哲也 (昭39医)	黒崎利保 (昭28商)	工藤順弘 (昭25医専)	北村芳雄 (昭16専)	平成31年	
細矢徹 (昭35商)	鈴木充 (昭36商)	南部明稔 (昭36商)	赤井健二 (昭37商)	森田上八 (昭37医)	大石八洲夫 (昭38商)	翁長自隆 (昭39商)	市川秀子 (昭39文)	石田徹玄 (昭40商)	竹下明男 (昭40商)	瀧崎紘一郎 (昭40文)	吉村正明 (昭40医)	足立道夫 (昭41商)	越村道子 (昭41文)	木村素子 (昭41文)	市川信敬 (昭42文)	小田豊 (昭43文)	宇津木茂男 (昭44商)	岸田郁弘 (昭44商)	林文夫 (昭46商)	谷賢治 (昭46医)	舩居啓次 (昭62商)	吉川節子 (昭63商)	令和3年	新堀豊彦 (昭29商)	野地武 (昭31医)	浅場敏男 (昭32商)	黒沢敦 (昭32商)	酒井徹 (昭32商)	西口久 (昭34理)	一柳俊夫 (昭38文)	中田洋一郎 (昭41生)	足立喜一 (昭43医)	柳川美恵子 (昭47化)	不明	大関興己 (昭6専)	堀公基 (昭36文)	西公基 (昭36文)			

編集後記

菊香る候、進交会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今回、進交会報第87号をY校版と市大版の分冊発行としました。進交会理事長挨拶の通り、一人でも多くの会員にお読みいただき、母校愛を深め、進交会(同窓会)への意識高揚を願っております。

進交会報が会員の情報交流に役立ち、併せて、進交会館みなと倶楽部が会員の皆様の交流の場に活用されるよう願っております。分冊についてのアンケートを同封しましたので、忌憚のないご意見等をお寄せください。

また、進交会ホームページを一新し、進交会の名称の由来とともに、Y校版・市大版の両方を掲載しました。市大版には、来る横浜市大百周年に向けて「Y専の歴史」を掲載しましたので、ぜひ、ご一読のほどお勧め申し上げます。

令和三年二月に、長く進交会報編集委員をされた嶋田信子様(Y校昭和33年卒)がご逝去されました。紙面をお借りして、長年のご尽力に深謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

コロナ禍の収束や進交会活動の再開、皆様のご健康をお祈りしております。

末尾となりましたが、ご寄稿・広告掲載いただきました方々に厚くお礼申し上げますとともに、皆様から会報やホームページへのご寄稿をお待ちしております。

会報・HP委員長

桑原正子(市大文昭41卒)

創業88年の
パッケージメーカー

横浜リテラ



4月より新第2工場が本稼働!
詳しくはコチラから



ご相談・お見積りなどお気軽にお問い合わせください
〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町1965-4 TEL:045-811-2821